



## 新しい看護大学

学長 木村 賛



21世紀の新しい看護大学を目指して2000年に開学した石川県立看護大学も10年目に入りました。これまでに555名の卒業生・修了生を送り出してきました。来年の開学記念日5月29日には十周年記念事業を計画しています。また2011年4月からは、一つの法人の下に石川県立大学と並立する公立大学法人化が始まることになっています。新しい制度・組織に対応するためと、10年という節目を機会に、本学のこれまでのありかたを検証して今後の方向を探る作業を現在進めています。

人々の健康と福祉の向上に寄与するという本学の設立の趣旨と、それに基づく教育理念と教育目標については、変更する必要のないことを再確認しています。地域に開かれ、地域の問題に取り組む大学であり、地域での看護交流の拠点となるという開設以来の方針も、今後とも続けていくつもりです。ただし、その後に新しく設立されて本年3月に完成を迎えた大学院の充実や、医療・看護を取り巻く状況の変化、地域社会や看護界や学生の新しいニーズなどに対応して本学も変わって行かなくてはなりません。地域との関係も大学からの貢献といういいかたではなく、相互交流としてお互いに健康・福祉と看護の教育・研究を進めていけるやりかたを考えます。広く県民にとっても、学生・卒業生にとっても、教職員にとっても、よりよい大学となる新しい大学像を求めて行きたいとおもいます。

### 目次

新しい看護大学	1	海外出張教員からのトピックス	5
大学の主な動き		キャンパスライフ	
第10回入学式	2	フィールド実習	6
平成21年度新カリキュラムについて	2	第VI段階実習	6
開学記念行事 特別講演	3	サークル活動紹介	6
オープンキャンパス	3	大学祭のお知らせ	7
平成21年度日系研修事業	4	地域ケア総合センターから	8
看護スキル・ラボを開設	4	キャンパススケジュール 2009年度後期	8
新型インフルエンザ		編集後記	8
いかに後期の臨地実習・授業を乗り越えるか!	4		



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

大学 看護学部看護学科  
大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1  
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319  
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>  
E-mail [office@ishikawa-nu.ac.jp](mailto:office@ishikawa-nu.ac.jp)

# 大学の主な動き

## 第10回入学式

平成21年4月6日、石川県立看護大学入学式が挙行されました。かほく市に本学が開設されてから早10年、節目の年であります。校門の桜の花も咲き始め、入学生の新たな出発を祝してくれているようでありました。学部生81名、編入学生9名、大学院博士前期課程9名、博士後期課程1名は、石川県副知事山岸勇様はじめ県議会議長、看護協会長、後援会長等のご臨席を賜り、生命や健康を守る看護職への第一歩を踏み出した学部生への期待、さらに高度専門職者をめざす院生への期待を込めた祝辞を頂戴しました。入学生代表の宣誓の言葉の中にも、新しい学びへの決意が見てとれました。充実した素晴らしい学生生活を送って欲しいと願ってやみません。

看護教育が大学教育へと進展してきた背景には、多くの看護職の先輩達の努力があったことを知っていただきたいと思います。本学では温かく豊かな人間性、社会的な使命感、国際的な視野を育むための幅広い教養教育、専門職として自らの問題意識を高め、現実を切り拓いていくための基盤を培うことを大切にしております。学生時代には多くの失敗もあるかもしれません。しかし、その中から人間としての強さ、優しさ、自ら粘り強く学び続ける力を高めていって欲しいと思います。今、ここに立っているのは自らの意志であると感じて……

教務委員長 川島 和代



大学院 入学式



大 学 入学式

## 平成21年度新カリキュラムについて

皆さん、4月にシラバスを手にとりてすでにお気づきのことと思いますが、本年度入学生から新カリキュラムの教育課程が適応されています。これは、本学の特色ある教育理念の更なる実現をめざし、かつ、急速に変化する社会の要請に応じて改正された保健師助産師看護師学校養成所指定新規則（平成21年度施行）に適合するよう、平成19年度から全学をあげて検討を重ねた結果が結実したものです。このカリキュラムにはさまざまな工夫が盛り込まれていますが、卒業所要単位は旧カリキュラムと同様の128単位のままとなっています。新カリキュラムの一例をあげますと、『疾病・障害論』を1年次後期から、『基礎看護学』を1年次前期から、それぞれ従来よりも半期前倒して履修することとし、専門科目の履修期間を拡充して余裕をもって履修できるようにしました。また、『基礎看護学』のうち『フィジカルアセスメント』を独立した科目として2年後期に新設しました。新規則で新設された「看護の統合分野」では、社会復帰支援、疾病再発予防の実践、継続看護等の能力の獲得に重点をおき、本学の特色を打ち出しています。また、『国際看護演習』と『国際看護論』を独立させるなど、本学の従来の「看護の発展分野」をさらに充実したものとしました。これらと平行して、新設された看護スキルラボを活用した学内演習も看護実践能力の向上に効果を上げると期待されます。また、カリキュラム改訂の形には現れていませんが、大学生活の基礎となるアカデミックリテラシーと看護職として基本的な能力であるコミュニケーション能力については、全教員がさまざまな機会をとらえて支援を続けていきます。これを機会にシラバスをもう一度めくってみてはいかがでしょうか？

前カリキュラム委員長 多久和 典子

## 開学記念行事 特別講演「21世紀の看護を創るのはあなた -チャレンジングにしなやかに-」



5月29日は本学の10回目の開学記念日でした。本年は、日本赤十字看護大学学部長である川嶋みどり先生をお招きし、講堂において特別講演会を開催しました。当日は学生、大学院生、教職員に加えて、実習施設の看護師など多くの参加があり、広い講堂が埋め尽くされました。

20世紀における看護の先導役として看護界に大きな足跡を残し、今もなお、多くの看護職者に対して、厳しくもあたたかなメッセージを送り続ける先生から、21世紀の看護を担う責務と役割についてご講演をいただきました。多くの事例を提示されながら、日常的習慣的ケアやごくありふれた営みへの

援助の意味を明確に示していただきました。そして、看護の歩いてきた道をふり返し、今、看護が直面していることを知り、これから行く道を切り開くために何をすべきかを考え行動するエネルギーをいただきました。会場には看護を学び始めた1年生、臨地実習での経験から看護を再考している上級学年の学生など、それぞれの経験をベースにしなが先生のお話に傾聴した90分でした。看護師58年の川嶋先生、看護への探求心と情熱は衰えることなく、後輩の私達に大なる夢と力を与えてくださいました。あらためて、川嶋みどり先生に感謝申し上げます。

学生部長 丸岡 直子



＜学生の感想の中から＞

◇暑いタオルでの体を拭くこと。そのことが、患者さんの安楽、症状緩和、闘病意欲や食欲を引き出すなど、生きる活力を生み出すことを知り、看護の力のすごさをあらためて感じた。（1年生）

◇対象がその人らしく生きていけるように、どうしたら生活しやすいか、生命を脅かすものを取り除くには何をなすべきかを考えていきたい。看護とは何か？を一生の課題として歩みたい。（4年生）

## オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは、7月18日（土）に開催されました。朝方の時折強い風雨の中、250名を越える高校生やその保護者らの参加があり、大学内は終日多くの参加者やボランティアの在学生で賑わいました。

当日は、講堂での大学概要・入試情報の説明後、5つのテーマから参加者それぞれが選択した公開授業を講義室や看護実習室で受講していただきました。また、本学の特徴である看護学実習・フィールド実習や国際交流の紹介、学内施設の見学、各看護学実習室での看護学体験を行ない、参加者が積極的に本学の教育内容や環境に触れていました。相談コーナーでは、教職員による入試や大学生活等についての個別相談や在学生による受験対策や学生生活等の相談が活発に行なわれていました。参加者の感想は、「進路決定の参考になった」や「看護大学の授業を知ることができた」と概ね良好でした。

このオープンキャンパスを通して本学への理解を深められたらと思います。一人でも多くの参加者に、本学の進学を志していただけることを期待しています。

広報委員 曾根 志穂



## 平成21年度 日系研修事業

今年で3年目となるJICAの支援による南米パラグアイからの日系研修生受け入れ事業は、7月3日から9月8日まで2人の研修生を迎えて実施しました。パラグアイ日系人社会は移住後60年を経て高齢化が進行しており、介護予防等の適切な高齢者ケアの仕組みづくりが急がれています。すでに、8人の研修生が本プログラムで学び、各地区の日系人社会でボランティアとして活動を開始していますが、今年の2人も研修で得た知識・技術を活動に活かしたいと強い意志を持って研修されていました。昨年と同様、羽咋市社会福祉協議会と本学が、全期間の約半分ずつを担当しました。

羽咋市社会福祉協議会が計画した研修は、羽咋市全域で多くの市民の協力によって実施され、その地域ならではの介護予防のあり方を学ぶことができ、また本学では、教員による実際の講義と演習によって高齢者介護への理解を深めることができたとのことでした。今年の施設見学では、愛媛県松山市の「託老所あんき」まで出かけました。研修で得た多くの経験から、アイデアに満ちた方法・様々な考え方など沢山の気づきがあり、それらを用いたアクションプランが報告されました。デイサービスへの関心を高めて参加者を増やすこと、施設や在宅でのリハビリについて多くの人に知ってもらいリハビリができるようにすること、介護者の負担を減らす方法等について、問題と具体的計画を提示していました。研修生の受け入れは大変でしたが、私たちにも多くの学びがあった研修でした。

地域ケアセンター長 佐々木 順子

## 看護スキル・ラボを開設

今年4月に看護スキル・ラボを開設しました。看護スキル・ラボは、看護技術を科学的に根拠づけながら正確な技術修得をめざす模擬病室と技術研究・練習室を備えています。

看護スキル・ラボの特徴は、①ナースステーション（想定）に隣接した2人床2部屋があり、実際の病室に準じた機能を備えた環境になっています。②ナースステーションを兼ねた技術研究・練習室は、ナースステーションの機能をはじめ、人工呼吸用人形やAED、採血、口腔ケア、気管内吸引、嚥下のメカニズム等のシミュレーターが配置されていることで学生個人の技術の修得状況に合わせて反復学習が可能です。また、患者－看護師との関わりの実感が観察できる機能として、病室内の現象を360度方向から撮影できるカメラを2台設置しています。カメラ操作によって看護現象における患者の様子、看護師の患者への対応方法（態度、立ち位置、姿勢、視線など）、看護師の手技（手・指の動き）、コミュニケーションのあり方等を撮影し、その状況を繰り返して学習できるばかりでなく、学内インターネットケーブルを使用して各実習室へ配信し学習資源を最大限に有効活用することができます。

看護スキル・ラボは、学生の自学自習を支える教育媒体です。皆さんが自由かつ積極的に活用することを期待しています。

## 新型インフルエンザ いかに後期の臨地実習・授業を乗り越えるか！

本学ではWHOが新型インフルエンザの警戒レベルを上げた時点や国内感染が報告された時期、さらには石川県内で集団感染が報告された時期に、学生・大学院生および教職員に対して、感染防止行動の徹底とインフルエンザ症状を呈した際の行動について学内掲示や一斉メール発信にて注意を喚起してきました。また、手指消毒液を出入り口に設置し、マスク等の感染防止物品の整備も行ってきました。

10月1日から後期の授業がスタートし、1～3年生は医療機関等での臨地実習が、4年生は卒業研究や国家試験準備などの課題を控えています。後期は季節性インフルエンザの流行に加えて、新型インフルエンザの感染拡大が懸念される時期です。特に新型インフルエンザの発症状況によっては休講措置を取らざるを得ない事態が想定され、学生および教職員にあっては、これまで以上に感染防止行動の徹底をお願いします。

学生部長 丸岡 直子



### インフルエンザ予防の基本

- 手洗い、うがいの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を徹底しましょう。
- バランスのよい食事と十分な休養をとり、疲労を避けましょう。
- 発熱や咳、さむけ、のどの痛みなどインフルエンザ様の症状がある場合は、事前に医療機関に電話で連絡し、早めの受診を心掛け、なるべく外出を控えましょう。
- 医療機関を受診する場合など、外出する際は、必ずマスクを着用しましょう。
- 新型インフルエンザと診断された場合は、医師の指示に従い、症状がある間は、外出を控えましょう。

\*外出を控える期間の目安

症状が始まった日から7日目まで、または、熱が下がった日から2日を経過するまで



# 海外出張教員からのトピックス

## 中国学会

8月に北京から新幹線で3時間ほどの太原市にある山西省医科大学にて看護学術交流会が開催され参加しました。偶然にも私の発表時の通訳が本学の地域看護の研修で学ばれた康さんであり話が弾みました。太原市は山西省の中心都市です。石炭や鉄の資源に恵まれ重工業都市として近年著しく発展しており、公害が大きな問題となっています。医療に関しては先進諸国の技術やシステムの良き点を積極的かつ急速に取り入れ、衛生庁の方々、医師や看護師、看護協会の方々の熱心な姿勢がとても印象的で国家政策が伺えました。産科に関しては帝王切開率が30%ほどであり日本よりやや高く、産痛に関して針麻酔は文化大革命のときは宣伝のためになされたそうですが、現在は皆無に近いとの事でした。今後の調査研究の打ち合わせも進み、短期間でしたが有意義な日々となりました。

教授 吉田和枝



## JICAタジキスタン共和国国別研修 フォローアップ調査

タジキスタン共和国は人口約700万人、国土の93%が山岳地帯の中央アジアの国です。本学ではJICA国別研修「母と子のすこやか支援プロジェクト」として乳幼児死亡率の削減と妊産婦の健康改善を目指し、2005年から毎年南部ハトロン州から6名の研修員を受け入れています。

2009年8月8日～21日まで母子保健の現状や研修員の活動状況を把握するためにJICAフォローアップ調査が実施され、本学参与、研修監理員、JICA北陸担当者とともに現地を訪問しました。訪問先は日本大使館やJICA事務所、WHO・UNICEF事務所、保健省母子保健局、ハトロン州保健局およびJ.ルミ、A.ジョミ、ヴァフシ、シャルツウーズの4地区中央病院とヘルスセンターやメディカルハウス、研修員宅等です。18名の研修員の内14名に面会することができ、連日50度近い気温の中、3ヵ所で開催したセミナーで7名の研修員が活動状況を報告してくれました。

現地の経済状況は厳しく、安全な水の確保等インフラ整備は遅れ課題は多くあるものの、アクションプランの乳幼児や妊産婦に対する集団健診や健康教育の実施、母乳哺育やカンガルーケアの推進、分娩への家族立ち会いやフリースタイル分娩の導入など積極的に活動している状況を確認することができました。



准教授 山岸映子

# キャンパスライフ

## フィールド実習

教員 小林 宏光

今年度のフィールド実習はバリアフリーというテーマに取り組みました。担当は私(小林)と基礎看護学の藤田先生で、学生は7名なのですが、どういうわけか、男子学生ばかりのグループになってしまいました。具体的には、県内数カ所のケアセンター、グループホーム等の協力を得て、施設利用者の外出サポートを行いました。2日間で計19名の高齢者のサポートを行い、この経験を通じて公共施設や商業施設などのバリアフリーについて検討しました。

一般にバリアフリーといえば、段差を無くすとか手すりを付けることなどがまず思い浮かびますが、こういった物質的なバリアだけではなく、心理的な要因も重大なバリアとなります。例えば、商業施設で駐車場から店舗内に移動するのにも、高齢者ではものすごく時間がかかります。その間にも駐車場にはどんどん車が入ってきて、しばらく待ってもらわなければならないような状況もあったのですが、クラクションを鳴らしたりいやな顔をしたりした人はいませんでした。その後、施設内の飲食店で昼食をとったのですが、店員の方はいやな顔一つせず車いすの移動なども手伝ってくれました。これらの経験を通じて、福祉ということに対する社会全体の認識が少しずつであれ向上しているのではないかと感じました。

7名の学生の中には、3年次編入生や社会人学生もいて、それぞれの年齢、経験、出身地もばらばらだったのですが、明確な目的意識を持ったまとまりのあるグループになりました。学生だけでなく、担当教員にとっても良い実習になったと思います。



## 第Ⅵ段階実習



4年 中村 のぞみ

在宅看護学実習では、療養者は寝たきりで、家族や近隣の方の協力を得ながら、訪問看護などの社会資源を利用し、生活している方を訪問させて頂きました。療養者は家族に対し申し訳なさを感じ、言いたい事を言えず、家族は相当の負担を感じながらも、療養者と同じ場所で共に生活したいという思いを支えに、懸命に療養者の世話をしながら生活しておられました。

この実習を通して、療養者が望む場で望む生活を、出来るだけ長く送ることが出来るように援助する事が大切だと学びました。また、身体的ケアだけでなく、療養者そして家族の精神的ケアも非常に重要であるという事を学びました。私が看護師として働く際は、疾患に基づいた看護だけでなく、患者さんが自宅に戻った後もその方らしく生活出来るよう、患者さんや家族の今後の生活や考えられる負担をも考慮した援助も行いたいと思いました。

## サークル活動紹介

### BSKサークル

僕たちBSKサークルは毎週月曜日に活動しています。3年目の今年は1~4年生までの約30人で活動しており、みんなで和気あいあいと、賑やかに活動しています。もちろん未経験者もいますがとても練習熱心で、経験者にも負けにくいくらいに上達しています。

最近では、他の大学や社会人のクラブチームとの練習試合も多く、様々な交流を持てるようになりました。夏には公式戦にも出場し、勝つことはできませんでしたが、真剣に勝ち負けを争う試合ができ、とてもいい刺激になりました。

バスケット以外でも、夏休みには毎年海でキャンプを行い、バーベキューや花火をして楽しみました。冬にはクリスマスパーティーを企画する予定です。

BSKサークルではバスケットを楽しむことを目的として活動しているので、少しでも興味のある方は是非、見学からでも来てみてください。僕たちとバスケットを楽しみましょう!!

## 大学祭のお知らせ

# 第10回看護大学祭

第10回石川県立看護大学大学祭を10月31日(土)、11月1日(日)に開催いたします。

今年のコンセプトは、「みんなでEnjoy♡」と「高松と看護を若者に知ってもらおう♡」の2つであり、これらをもとにテーマを「No Love No Nursing」～愛は人を救う～としました。現在、いろいろな世代の方が大学祭を楽しむことができ、特に若い世代の方に高松のことや看護の素晴らしさを知っていただけるような大学祭にするため、多くの企画の準備を進めています。

企画の内容としては、講演会、各種の模擬店の出店、献血、お化け屋敷、カラオケ大会、合唱、「高松の家」、ミスコン、ピフォーアフター、〇×クイズ、ちびっこダンス、子供の部屋、フリーマーケット、高松中学校プラスバンドによる演奏、看護体験などがあります。「高松の家」では地元の特産品の販売や地元料理を味わえるコーナーを用意し、高松のことをほかの地域の方に知っていただきたいと思っています。カラオケ大会は現在出演者募集中ですので、参加されたい方はお気軽に申し出てください。また、アートサークル、華サークル、茶道サークルなどの各種サークルの企画もありますので、ぜひ足を運んでください。

講演会では、HIV感染者である北山翔子さんをお招きして、自身の経験を語っていただくとともに、HIV予防のための方策を参加者と議論する予定です。また、昨年の大学祭にお越しいただいた赤須太郎さんを今年もお招きして、「千恵さんのメッセージ」や「乳がんの早期発見の重要性」について講演いただく予定です。

小さなお子様からお年寄りの方まで多くの方に参加していただいて、大学祭を盛り上げていきたいと思っていますので、お誘いあわせの上是非ご参加ください。

### 【日 時】

平成21年

10月31日(土) 9:30～17:30

11月1日(日) 9:30～15:00

### 【場 所】

石川県立看護大学



A poster for the 10th Iwate Prefectural University of Nursing Festival. It features a large red heart outline containing the text 'NO LOVE NO NURSING' in black, bold, sans-serif font. Below the heart, the Japanese text '愛は人を救う...' (Love saves people...) is written in a smaller font. To the right, there is a silhouette of a person's head and shoulder. At the bottom, the event details are listed in red and black text: '第10回石川県立看護大学大学祭', '平成21年10月31日(土) 9:30～17:30', '11月1日(日) 9:30～15:00', and '場所: 石川県立看護大学'.

## 地域ケア総合センターから

石川県立看護大学附属地域ケア総合センターは、開かれた大学の総合窓口として、県民の健康・福祉の向上に寄与することを目的として活発な活動を行っています。

昨年度は、延べ1,236人の看護等専門職や県民の方たちが参加されました。

センターの運営は、14人の兼任教員・県健康福祉部の兼任保健師および1人のセンター専任事務職員が担っています。多くの方たちがご参加いただけるように土・日曜日開催のセンター事業が多くなっていますので、準備・実施・実施後報告および評価を担当する教職員の業務は大変です。ご参加くださった皆様からの「良い会だった」「勉強になった」「また参加したい」というご意見が私たちの励みになります。

本学設立10年を迎え、他大学に例を見ないセンターの活動の充実をめざして、『サービス提供の拠点から地域との相互交流の拠点へ』『看護師等の一層の資質向上』『県施策との協働』等の検討を始めています。

今後も、多くの方たちのご参加をお願いします。

地域ケアセンター長 佐々木 順子



## キャンパススケジュール 2009 年度後期

授業開始	10月1日(木)
履修登録受付	9月24日(木)～10月14日(水)
大学祭(看大祭)	10月31日(土)～11月1日(日)
冬季休業	12月25日(金)～1月7日(木)
大学入試センター試験準備日	1月15日(金)
補講・試験	2月26日(金)～3月4日(木)
春期休業	3月10日(水)～3月31日(水)
卒業式・学位授与式	3月13日(土)

## 編集後記

後期授業が始まり、大学も再び学生の熱気にあふれています。これからの時期、今年は特に新型インフルエンザ等の感染症予防の健康管理に各々が努めていかなければと思います。

また、次号のIPNUキャンパスネットに掲載してほしい内容の要望等がありましたら、ぜひ広報委員会までお知らせください。

(広報委員)

発行 ● 石川県立看護大学

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1  
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319  
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>  
E-mail [office@ishikawa-nu.ac.jp](mailto:office@ishikawa-nu.ac.jp)